

平成19年 8月 30日

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3071100279
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会
事業所名	グループホームひだまり
所在地 (電話番号)	和歌山県海南市方498-25 (電話)073-493-3310
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 8月 1日

## 【情報提供票より】(19年 5月 24日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤10人, 非常勤2人, 常勤換算10.1人	

### (2)建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	○有(100,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780円		

### (4)利用者の概要(5月24日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 80.6歳	最低	61歳	最高	94歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	西本内科外科医院 ・ 沼田歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居室には、自宅の個人の部屋を感じさせる馴染みの家具等が置かれていて、ホームは居室、共用空間とも家庭的な居心地よさが漂っている。職員は、利用者が安心して居るような表情や言葉遣いで、利用者の人格を尊重しながら接している。管理者は職員達に自由に意見を出してもらい、汲み上げていく等、改善に繋がる取り組みを行っていて、サービスの向上に向け懸命に努力している。また、法人においてもそれを支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	定期会議にて取り上げて検討しているが十分な内容とは言えない状態である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日頃の勤務の中で話に出たときに、意識的にその折々に、話し合うようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回運営会議を開催しているが、全員の参加が得られない。施設の事情等理解し易く伝えられるよう、また、関心を持ってもらえるよう会議の進め方等の検討をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望等にはスタッフ会議で意見交換し対応している。また、地域の民生委員や町内会等にも協力を得られるよう働きかけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、定期的に近隣の保育園、幼稚園から慰問を受け入れる等、連携に努めている。外出時には利用者一人ひとりに職員が付添い、地域住民の方に積極的に話しかけ、また地域の商店を利用する等交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に有るように地域の要望、必要性に応えている。地域行事や、散歩や買い物時等には積極的に地域と交流している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議で常に話し合い実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に作品を出展したり、近隣の保育所を訪問する等、地域との交流を行っている。また散歩時に地域の方と声を掛け合うように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、スタッフとも、改善には取り組んでいるが、評価を活かした取り組みの方法に苦慮している。	○	今後の取り組みを、定期的を開催する会議等で取り上げ検討する事を希望する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、市役所、地区民生委員など6名の協力を得られサービス向上に努めているが、全員の参加が得られない。	○	全員参加出来なくても、気長く働きかけることが望まれる。会議を継続させることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	サービスの質の向上に向け、取り組みに努力しているが、充分とは云えない。	○	取り組みの具体的な方法について、目的を持って取り組むことを希望する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	施設便りを2ヵ月に1回発行し家族等に、郵送や面会時に手渡したりしている。また、利用者の状況を説明し電話で報告している。金銭管理は個別出納帳を家族に説明しサインを頂いている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族等の苦情に関しては窓口、記録など出来ているが、外部に表せる機会は未だない。	○	家族等の意見を外部に表す機会は、客観的な取り組みを希望する。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	極力利用者が混乱しない様にこころがけている。施設内のデイサービス、2階ユニット、3階ユニット間の交流をして日頃から慣れていただくようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内外の研修に参加している。職員数に制約があり一度に多く参加できないが順番に参加している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	施設間交流を積極的に行い実習交流、伝達講習をしている。またグループホーム連絡会のネットワーク作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	月に一回食事に参加したり、デイカラオケ会をしたり、ご本人の出来ること、出来ないことを知り家族と相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の風習や料理を教えてもらったり、梅干作り等を行事に取り入れたりしている。楽しそうに談話しながら食事の準備等手伝ってもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時記録に本人の趣味・嗜好などを記載しており、今までの生活を知ることが出来る。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族や本人の要望を入れたサービス計画を作成し処遇会議で職員の意見を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。変化が生じた時は随時、利用者及び家族等と話し合い、現状に合う計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単調な生活に成りがちな施設生活に変化を持たせるため、居室のみに固定せず、デイサービスセンターを借りてレクレーションを実施したり、ユニット間を相互に訪問し交流している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医療施設が近辺にあり、また看護師も法人から時々訪問している等いつでも適切な医療が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ具体的な事例がないが、主治医や家族等と相談できるよう検討している。	○	今後ターミナルケアとして求められる事もあり、更に検討を希望する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、方言を所々使用しながら、言葉にも注意をして利用者の状態を見ながら、プライバシーに配慮するように対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先される場合もあるが利用者の希望に添うように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回の懐石料理の日を設ける等、食事を楽しんでいる。利用者と職員が共に準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な範囲で利用者の希望に添うようにしており、デイサービスの大浴場を利用することもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜、花づくりを積極的に取り組む利用者もいる。プランター、植木鉢、また木製ドラムを職員がチェーンソーでカットした手作りプランター等で、利用者の趣味を活かした支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体的に外出が困難な方は、施設周辺や他のユニットへ訪問する等、出来るだけ変化を持たせるよう努力している。また、散歩や外出買い物等に参加できる方には職員が付添い支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方もあり、また行方不明になることもあるので、階によっては玄関に施錠しているが、出来るだけ閉鎖感を与えないよう、利用者に応じ出入りしやすい対応を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練や講習を定期的実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量バランス、排泄など個人の生活シートに記録が取られている。	○	水分摂取に関して、自由に摂取する事が出来る様に更に考慮するよう希望する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内、共用空間とも、家庭的な居心地の良さがあり、採光、音など配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅を感じさせる使い慣れた家具などが置いてあり、居心地良く過ごせている。		